“色川茶”で繋ぐ移住・交流の拠点集落づくり　　色川生活圏（那智勝浦町）

①色川の現況

【 人　口 】401人【集落数】9集落【高齢化率】46.1%
【 世帯数 】218世帯（65歳以上一人暮らし 68世帯）
【 施　設 】那智勝浦町役場色川出張所、色川診療所
色川郵便局、小阪簡易郵便局、
大野保育所（14名）、色川小学校（13名）
色川中学校（12名）、籠ふるさと塾、円満地公園
色川茶業組合、農事組合法人「両谷園」
那智勝浦町森林組合
【地域資源】神社３（色川神社など）
寺院４（禅定林寺など）

【主 産 業】茶業（色川茶）
（茶業組合：21人、生産量約3.5t、4.8ha）
（両 谷 園：11人、生産量約4.2t、7.2ha）
農業一般（水稲、野菜、果樹）
・耕作面積：33ha（田9ha、畑16ha、果樹園8ha）
・耕作放棄地：23ha　販売農家：78戸
【特 産 品】色川茶、卵、梅・ユズ加工品
【鳥獣被害】シカによる茶葉の食害
サル、イノシシ、シカ等による農作物被害

【交　　通】町営バス色川線（役場前～大野橋）
・３便／日　９人乗
色川ﾀｸｼｰ（車両数２　観光客対応が主体）
【生活環境】色川診療所　　医師１名（非常勤）
・診療　火曜日（13:30～15:00）
色川よろず屋（食料品、日用品など）
田村商店（食料品、日用品など）
移動販売（丸本商店〈宇久井〉）
・週３回（火、木、土）
・肉、魚、乳製品、野菜、パン、惣菜等

②色川の課題

１．放棄茶畑や遊休農地が増加し、地域力が低下
・担い手の高齢化による放置茶畑、遊休農地の増加が深刻化
・Ｉターン者等の移住者を受け入れるために必要な就労の場が減少
・シカの茶葉食害や、サル、イノシシ、シカ等の農作物被害が深刻化

２．生活環境の被災、及び移住・交流や高齢者支援等の活動拠点が必要
・台風12号により被災した生活用水の確保が必要
・Ｉターン者等の移住・定住、地域内外の交流を推進する総合的な活動拠点づくりが必要
・高齢者への自立支援、及び買い物環境の改善が必要

③総合対策

（色川の茶畑）

（茶っぷりん）（茶ッキー）

《産業対策》　4,266千円

○「色川茶」を中心とした農林産物活用への取組

①生産（色川茶業組合、両谷園、色川鳥獣害対策協議会）
・放棄茶畑、遊休農地の活用
・地域ぐるみの鳥獣害対策講習会の開催
・地域ぐるみの捕獲オリ、防護柵の設置

②加工（あぐり工房いろかわ、耕人舎、色川青年会）
・女性を中心に、色川茶、色川産品を使った新商品開発、及び商品化
（キーワード＝食べるお茶：(仮称)茶っぷりん、(仮称)茶ッキー）
・放置間伐材を活用して薪を製造し、主に地域住民へ安価で販売

③販売促進（色川ブランド研究会）
・販売促進用チラシの製作（観光案内所、道の駅、通販の折り込みなどに活用）
・色川茶＋色川産品のネット販売（色川茶がゆセット《色川茶＋色川米》）
・百貨店、Ａコープ等への販売、「いろかわショップ」の開設、販売

（口色川の空き家）

《生活・交流対策》　14,695千円

○生活用水の確保（色川各区、那智勝浦町）
・生活用水確保の為の施設整備

○移住・体験・交流の活動拠点整備（色川地域振興推進委員会）
・ＪＡ遊休施設を移住・交流の活動拠点として、地域住民が主体となり改修
・移住・体験・交流の総合対応機関として活用（受付、情報発信、視察・取材対応など）
・地域内各団体の情報交換及び連携・交流の場として活用

○移住者受入のための短期滞在施設整備《小阪地区》（小阪区、棚田を守ろう会）
・移住希望者、及び地区住民参加型による短期滞在施設の設置
（移住希望者の参加は公募）
・色川地域内への移住希望者を、高齢化率の高い小阪地区（８０％）へ誘導する取組

○高齢者自立支援活動拠点整備、及び集落訪問者への「おもてなし」（ゲタバキの会）
・口色川地区内の空き家を改修し、高齢者の自立支援、及び住民交流の場として活用
・移住関係の視察などの訪問者を対象に、地域食材を使用した食の提供で「おもてなし」
・買い物環境の改善のため、色川よろず屋に冷蔵庫、冷凍庫を設置

④目指すべき姿

○色川茶や色川産品の生産力向上で活力ＵＰ!!
○移住・交流の推進による元気な集落づくり!

【事業期間】H24.7～H27.3
【事業主体】色川地域振興推進委員会、色川茶業組合、両谷園、色川ブランド研究会、あぐり工房いろかわ、耕人舎、色川鳥獣害対策協議会、ゲタバキの会
棚田を守ろう会、色川青年会、色川区長会、那智勝浦町

全体事業費	18,961千円
県	9,976千円
町	6,574千円
国	千円
地元	2,411千円